

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	06200000	経営企画部 企画課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言		款項目	02	総務費	01	総務管理費		13	定住自立圏構想推進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-				目標値	-	
中事業	15	主要な取り組み									
小事業	17	みのかも定住自立圏推進事業（定住）		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	<p>今後はこの地域の人口減少、少子高齢化が進み、加速していく見込みである。そうした状況が進む中で、地域社会が抱える課題は多種多様で、そのすべてを1つの自治体だけで対応・解決していくことはより一層厳しくなっていくことが予想される。</p> <p>。みのかも定住自立圏における将来推計人口の状況（2018年国立社会保障人口問題研究所）は、美濃加茂市においては、2025年までは増加し、それを境に減少に転ずることが見込まれている。一方、周辺7町村では年々減少を続けていくことが見込まれている。圏域全体の推計人口は、美濃加茂市の増加を周辺町村の減少が上回る形となり、減少していくことが予想されている。</p>				
	対 象	圏域に住んでいる人、圏域内外で関係する人				
	目 的	<p>圏域の将来像を定める共生ビジョンに基づく各事業の推進により、圏域の暮らしやすさや認知度を高め、圏域内外の住民にとって「住みたいまち」「住み続けたいまち」とすることで、圏域の魅力の向上及び交流人口を増加させ、圏域各市町村の人口ビジョンの目標を達成する。</p>				
	概 要	<p>圏域の魅力を上向きさせるとともに情報を発信し、交流人口の増加と圏域の認知度を上げ定住につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域の現状と推移を分析し、将来にわたって住み続けられる圏域となるような計画の策定 ・ 構成市町村の個性を活かした事業の連携推進 ・ 各事業主体や担当部署との連携を強化し、事業の進捗管理 ・ 中心市として、構成市町村を取りまとめ、圏域の連携促進 				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,848	1,484	1,238	837	889
	決算額	1,395	204	816	357	133
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	3,215 / 10				

実 績	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点事業 8 事業、基本事業 1 2 事業を推進 ・ 事務局担当者会議の開催 ・ 首長ビジョン懇談会開催 ・ みのかも定住自立圏第 4 次共生ビジョンの将来像、基本計画の策定 ・ 第3次から第4次共生ビジョンへの引継ぎ評価 ・ 先進地調査のため圏域職員と伊那市へ視察
	効 果	みのかも定住自立圏第 3 次共生ビジョンに基づいた事業を継続的に実施することにより、1 つの自治体ではできない事業等の実施ができています。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	共生ビジョン事業実施率（％）	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100	100	100	100	100
アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	圏域人口ビジョンの実現（人）	目標値	104,658	104,609	104,560	104,511	104,462
		実績値	103,469	102,175	101,828	103,655	103,192

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・ 未達成要因	適切な事業評価等を実施し、評価分析したものを次年度の事業内容へと反映させることができるなど、担当課とのコミュニケーションを取りながら進めていくことができた。 KPI指標の変更に伴い、R 7 年度よりKPI達成率を上昇させるための取組みを活動指標として新たに設定する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・ 未達成要因	KPIとしては大きすぎる指標であり、事業を実施したことで成果につながる指標となっていないため、R 7 年度より、共生ビジョン掲載事業KPI達成率へ変更する。
	実績からR07年度の 事業の方向性	R 7 年度で第3次共生ビジョンが終期を迎えるため、第4次共生ビジョンの作成にあたり現状の課題を認識し、それを解消できる事業を担当課と調整しながら立案を進めていく。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	06200000	経営企画部 企画課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-			目標値	-
中事業	15	主要な取り組み							
小事業	19	総合戦略事業事務費	目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	都市部への人口流出や少子高齢化により、地方では若い世代の減少や働き手の減少等、将来にわたって暮らし続けるための課題が全国的にある。当市においては、若い世代の転入が超過している状態であるが、出生数が減少に転じており、人口の自然減は全国的な傾向と変わらない。課題は、出産、子育て、就労等多岐にわたることから、総合的かつ連動した取り組みが必要である。				
	対 象	市民及び市内の団体・企業等				
	目 的	第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「Caminho（カミーノ）」（令和2～6年度）の進捗を管理する ・総合戦略「Caminho カミーノ」の広報周知及び進捗管理 ・デジタル田園都市国家構想交付金の利活用 ・産官学労金言各領域の専門家による総合戦略推進アドバイザーの助言を活用 ・第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定				
	概 要	第6次総合計画のまちづくり宣言「女性若者活躍」を具現化するために、第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「Caminho（カミーノ）」（兼美濃加茂市女性活躍推進計画）を推進する。 地域が抱える社会課題などを踏まえて、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを掲げた「地方版総合戦略」を策定し、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決、魅力向上のプレイクスルーを実現し、地域活性化に取り組む。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,362	689	24,465	151,211	3,382
	決算額	354	12	24,329	150,770	3,231
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,443 / 0				



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	総合戦略アドバイザー会議の開催 回数（回）	目標値				1	4
		実績値				2	4



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	美濃加茂市人口（年度10月現在）	目標値	57,375	57,610	57,803	57,986	58,160
		実績値	57,301	57,178	57,219	57,448	57,534

実
績



評 価 分 析	実 績	・第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと総合戦略「カミーノ」（令和2～6年度）の進捗管理 ・総合戦略推進アドバイザーとの懇談会を実施（4回） ・各事業に対するアドバイザーからの意見・評価の聴取及び事業担当課へフィードバックした。 ・デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、新規事業1件（デジタル実装タイプ）継続事業1件（地方創生推進タイプ）を実施。 ・人口ビジョンを改定し、第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと総合戦略を策定した。 ・企業版ふるさと納税受入：450万円
	効 果	人口は微増であるが右肩上がりに増加している。転入超過である。
	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	第2期総合戦略の進捗管理及び第3期総合戦略の策定において、総合戦略推進アドバイザーの支援を効果的に活かすことができた。総合戦略推進アドバイザーとより深い議論を交わすことができるよう、個別面談を実施するためKPIを変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	人口の社会増減数は増加しているが、自然増減数が減少（出生数が減少に転じている）していることが、未達成の要因と分析する。令和7年4月に策定した、第3期総合戦略のKPIに基づきKPIを変更する。
	実績からR07年度の 事業の方向性	新たに策定した第3期総合戦略の目標である「住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちをつくる」の達成を目指し、各事業の進捗を管理し効果検証を行う。また、交付金の活用や企業版ふるさと納税の寄附に注力する。

会計区分	01	一般会計	令和6年度 事業評価書				事業主体	06200000	経営企画部 企画課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費	01	総務管理費	07	市民まちづくり推進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-			目標値	-
中事業	20	主要な取り組み							
小事業	06	広聴推進事業	目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	多様化する市民ニーズに合ったまちづくりを推進していくため、市政への市民参画は必須となる。市民がまちづくりに参画するための環境を整備することは、市民自らがまちの未来を見つめ、今の課題や解決に向けた取り組みをを考えることになり、持続可能なまちを育むことにつながる。				
	対 象	市民及び市内の団体・企業等				
	目 的	多様化する市民ニーズを把握し、市民の声を広く聴き、それらを分析、判断することで市民の意向をまちづくりに反映させる。それにより、市民の市政参加を促進し、より満足度の高いまちづくりを推進する。				
	概 要	市民からのまちづくりに対しての意見を収集する機会を創出し、市民アンケートによりニーズ調査を実施する。 ・市民の声、アンケートBOX、市長への提案、市LINE公式アカウントを活用した市民からの意見募集 ・市民満足度調査（市民アンケート） ・パブリックコメント				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,180	2,075	1,285	3,490	5,061
	決算額	1,546	1,237	960	3,489	4,766
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	2,862 / 0				



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	意見提出方法	目標値	3	3	3	4	4
		実績値	3	3	3	4	4



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	市民意見の提案数 （市長への提案＋市民の声）	目標値	120	120	120	120	120
		実績値	36	13	99	56	48

実
績



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	・市民満足度調査実施（回答率36.1%内ネット:27.9%） ・市民の声452件 ・市長への提案を実施及びHP公表 ・市LINE公式アカウント登録者数（R7.3.31現在）18,601人（前年比80.9%増） ・市LINE公式アカウント周知のためのPRを実施（SNS広告掲載委託、LINE登録立札作成、駅構内看板デザイン、駅南三角塔デザイン、LINEチラシ&カード作成、転入者用チラシデザイン、登録者1万人達成記念イベント実施） ・市公式LINEを活用したデジタル職員防災訓練実施
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	・様々なところでLINEの周知啓発を実施したことで、前年比約80%増という登録者の獲得があり、デジタルサービス利用者増に効果があった。
	実績からR07年度 の事業の方向性	・スマホ市役所推進により既存の受付方法に、新たにLINEを追加することで、市民からの意見を受け付ける窓口の幅が広がった。 ・市民の声を広く多く聴くためにも、指定期限内に回答を遵守するKPIに変更する。 ・これまでは「市長への提案」は年に一回広報紙による紙媒体で周知し、回収も行っていたため、市民が提案を提出する機会が限定されていた。 ・多様化する市民ニーズを把握し、それらを分析することで市民の意向をまちづくりに反映するためのKPI（改善や提案の意見）に変更する。 ・市公式LINEの取り組みについてはR7年度から「スマホ市役所事業」へ移行する。 ・市長への提案を広報紙で回収するのではなく、WEB受付に変更し、年間を通していつでも受付できるようにする。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	06200000	経営企画部 企画課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業				目標値		
中事業	20	主要な取り組み	K P I	-					-
小事業	10	第6次総合計画推進事業	目標年度	令和6年度					



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	第6次総合計画の目標達成のため、市民に計画を知ってもらい、積極的に事業に参加することが重要。また、実施した事業については、実績や効果を振り返り、次年度に活かすことで効率よく事業を展開していかなければならない。					
対 象	市民、企業、職員					
目 的	第6次総合計画の目指すべき姿の実現に向け、根拠に基づいた事業を展開していくための進捗管理を行う。また、その過程を市民と共有し、まちづくりへの市民参画を狙うため。					
概 要	めざすべき姿を広く市民の皆さんと共有するため、分かりやすく、伝わりやすい「絵本、冊子、動画」をPRする。また、事業の進捗管理を行い、効果的に事業を展開する。 ・冊子、絵本、PR動画を活用したPR ・事業計画書、事業評価書の進捗管理 ・政策アドバイザーの活用 ・第6次総合計画前期基本計画が令和6年度で終了することに伴い、令和7年度から令和11年度までを計画期間とする後期基本計画を策定する。 ・第6次総合計画後期基本計画策定					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,786	3,467	4,021	1,146	18,619
	決算額	1,569	1,967	3,555	579	13,396
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		2,749 /				0



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	計画書、絵本の配布数	目標値	2,500	2,500	2,500	1,000	1,000
		実績値	970	970	583	622	761



アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	総合計画認知度（％） （市民満足度調査）	目標値	30	35	40	45	50
		実績値	8.3	10.4	12.7	10.4	18.5



実 績	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・第6次総合計画後期基本計画策定 ・第6次総合計画周知用冊子、絵本の配布 ・事業計画書、評価書精査、事業評価書の公開 ・予算編成重点方針策定 ・政策アドバイザー運営 ・庁内事業評価実施
	効 果	事業評価書の精査、庁内事業評価をすることで、担当課が事業に対する根拠を見つけ、事業の方向性に活かすことに繋がった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	1歳半にて子育て世帯に配布、各公共施設で計画冊子の配布を予定どおり実施する事が出来た。 次年度からKPI指標を変更したため、KPI達成に向けた指標内容として、事業のKPI達成率を向上させるための事業精査に係る取り組み回数に変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	前年度より認知度は上昇したが、要因については分析がしきれない。 この事業の目的は、認知度をあげることではないため、R7年度からは第6次総合計画後期基本計画事業KPI達成率に指標を変更する。
	実績からR07年度 の事業の方向性	本年度、第6次総合計画前期基本計画を5年間やってきた課題を分析し、課題を解決するための後期基本計画の策定が完了した。すべて事業課をあげて、設定した目標を達成していくために、政策立案の研修会や、事業評価の対応に注力し、結果が出るように取り組む。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	06200000	経営企画部 企画課
大 事 業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-			目標値	-
中事業	20	主要な取り組み							
小事業	14	広域連携事業	目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	行政課題が多様化するなかで、単独の自治体ですべての課題を解決することが困難な状況である。				
	対 象	市民及び連携自治体住民				
	目 的	都市間連携・交流を促進することにより当市の認知度を高めると同時に、関係人口を創出し活性化を図る。あわせて、共通の行政課題への対応を図る。				
	概 要	広域（名古屋圏、可茂広域等）での連携、交流の促進を行う。 ・名古屋圏との連携事業（シェイクアウト訓練、栄まちじゅう音楽広場、ソーシャルキャッスルマーケット）の実施 ・可茂広域行政事務連絡協議会の事務の実施 ・東海環状都市交流連携会議への参加 ・三市（美濃加茂市・関市・各務原市）連携事業の推進				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額			263	238	245
	決算額			189	197	33
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	200 / 0				



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	名古屋圏との連携事業数（件）	目標値			3	3	3
		実績値			3	3	2

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	名古屋圏との連携事業の来場者、参加者数（人）	目標値			24,000	24,000	24,000
		実績値			45,275	39,776	38,573

実
績

実 績	【名古屋連携】シェイクアウト訓練実施（参加者数6,573人）、ソーシャルキャッスルマーケット実施 【三市連携】連携事業検討会議を実施 【可茂広域】可茂広域行政事務連絡協議会の運営 【都市連携】東海環状都市交流連携会議への参加、観光情報の共同発信等
効 果	【名古屋連携】名古屋のテレビ塔下で、市のPRを実施したことで、名古屋圏域に対して一定の認知度の上昇にはつながった。 【三市連携】三市連携による協議を重ね、新たな事業の創出が進んだ。 【可茂広域】可茂広域行政事務組合連絡協議会の運営により、効果的な事務組合の運営を図ることができた。

評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	栄まちじゅう音楽広場について、学校側の予定と合わなかったため、実績として2事業の実績となった。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	改めて本事業の目的を明確に定めなければならないが、来場者数や参加者をコントロールすることは困難であるため、目的を見直したうえで再設定をする。
実績からR07年度の 事業の方向性	ソーシャルキャッスルマーケットについては、まちづくり課と協議し、費用対効果の面から令和7年度からは不参加とする。 栄まちじゅう音楽広場、シェイクアウト訓練については、改めて事業目的を再確認して、それに合わせた事業の方向性に変更させていく。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	06200000	経営企画部 企画課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費	05	統計調査費		01	統計調査総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I					目標値	-
中事業	23	主要な取り組み								
小事業	14	統計事務事業	目標年度	令和6年度						



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	膨大なデータは経営戦略や営業戦略を立てる上で貴重な分析材料になるが、上手く活用できなければ効果を発揮しない。データは利活用してはじめて有意義なものになるため、利活用の方法が必須となる。					
対 象	市民及び関係者					
目 的	事業立案の際には、「やるか・やらないか」「増やすか・減らすか」といった意思決定が多く、こうした意思決定をデータの利活用に基づいて行った場合、効果的に事業が展開できるようになる。					
概 要	市の各種統計資料の作成と提供を行う。また、各種統計調査の結果を庁内で共有できる環境整備を実施。 ・美濃加茂市統計書作成 ・統計書ホームページ更新					
事 業 費 （千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	160	206	243	214	198
	決算額	160	206	243	0	198
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		524 /				176



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	ポケット統計の配布数	目標値	2,200	2,200	2,200	2,000	2,000
		実績値	2,100	1,570	1,221	1,520	0

アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	統計書販売数	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	5	0	0	0	0

実 績	実 績	・統計書の継続作成（毎年） ・統計書のホームページでの公開による、市民、事業所への情報提供、情報共有。利活用しやすいデータ形式での統計書のデータの公開を開始した。
	効 果	統計データ活用の職員向け研修を実施したことで、職員のデータ活用に対する意識は向上したと考える。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	直近の実績値を鑑みて、ポケット統計の作成を行わなかったため、目標値は未達成となる。KPIの見直しにより、令和7年度から活動指標を変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	統計書のデータはHPで取得できるため、冊子で購入する人はいなかった。時代の変化に合った情報提供を行う必要であるため、令和7年度からKPIを変更する。
	実績からR07年度の 事業の方向性	統計データの提供を紙媒体からデジタル化へと移行する。冊子等の印刷を止めて、HPに統計データを見やすく分かりやすいよう掲載して、統計データを取得しやすい環境を整備する。